



射水

SHIZU



射水神社

式年大祭完遂号

射水神社社報 第26号

夏風に揺られる吹流し

つながり ― 家庭と地域の絆 ―



射水神社宮司
松本正昭

朝夕は涼しさが増し、虫の音も心地好い季節となりましたが、皆様には益々ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

常日頃、御神威の発揚に格別なるご協力を戴いておりますこと、厚く御礼を申し上げます。

昨年の鎮座千三百四十年・遷座百四十年式年大祭及び記念事業は、皆様の篤志により目出度く完遂し、平成二十六年春に式年大祭に向けて結成された式年大祭奉賛会も本年六月に恙無く解散式を迎えられましたことは、此れも偏に崇敬奉賛会員の皆様・崇敬者各位のご支援によるものと深く感謝を申し上げる次第であります。

さて、ご存知の通り、初代天皇である神武天皇は、日向の高千穂の宮より東進せられながら困難を乗り越え、我が国を平定され、「八紘を掩ひて宇と為む」つまり、「天下に住む全てのものが、一つ屋根の下に大家族のように仲良く暮らせるようにする」という神武創業の精神を掲げ、奈良の畝傍山の麓、橿原の宮で即位されました。

この即位の日をもって、我が国の「建国記念日」と定められ、毎年二月十一日に建国を祝う紀元祭を斎行しておりますが、神武天皇が崩御になった四月三日には、橿原神宮を遙拝し、神武天皇の御偉業を称え奉る「神

武天皇祭遙拝」を執り行っています。折しも、本年は神武天皇が崩御されてより二千六百年の式年の年に当たることから、橿原神宮において「神武天皇二千六百年式年祭の儀」が執り行われ、当神社におきましても同日同時刻に境内祭場で遙拝の儀をご奉仕申し上げた次第です。

戦後七十年が過ぎ、この歩みの中で世情は目まぐるしく変化して参りました。あらゆる技術が進歩し、経済繁栄をもたらして、便利な世の中になりました。一見快適な生活のようにみえますが、その反面、家族の絆を弱め、思いも寄らぬ事件が毎日のように報道されております。

そして、かつて親から子、子から孫へと「言わずもがな」のうちに語り継がれてきた伝統的な家庭の祭り、地域の祭りも、戦後教育をうけた世代へと変わることで、神社を中心とする地域共同体意識が希薄化し、さらに近年では、少子高齢化に伴う高齢独居世帯の増加や、若者の都市部への定住など、地域・神社を取り巻く環境は厳しさを増しつつあります。

それでも、昨年をもって完遂した第六十二回神宮式年遷宮により、全国各地の神社や神道に対して、若い世代の関心が高まっています。我々神社人は、この機会をとらえ、地域共同体の「こころの拠り所」である神社の四季折々の祭りを通して、日本の伝統と文化、家庭の祭りを喚起すべく、さらに奉仕に努めるとともに、言挙げし、この現下状況を改善して「敬神崇祖」の実を上げて行かねばならないと覚悟を新たにしているところであります。

このような社会状況であればこそ、日本民族の底流に息づく神武創業の精神、農耕文化から生まれた勤勉、且つ助け合いの精神という父祖伝来のこころを今の社会に照らし、そこから生まれる叡智こそが、家庭と地域の絆を深め、日本の将来に繋がることであると思っております。



神武天皇祭遙拝

式年大祭奉賛会解散式並びに定例総会

昨秋、斎行された射水神社式年大祭の奉賛会解散式、並びに本年度の崇敬奉賛会定例総会が六月十八日に開催され、会員七十名が出席しました。

社殿にて正式参拝の後、総会は国旗儀礼として国歌斉唱に始まり、物故会員に対し黙祷、宮司、橘慶一郎総裁がそれぞれ挨拶。篤志奉納者への感謝状贈呈が行われました。



感謝状の贈呈

式年大祭奉賛会解散式では、穴田奉賛会長の挨拶の後、「活動概要報告」で「賜伊勢神宮 鳥居奉曳祭」、「神宮撤下御装束神宝」、臨時大祭「幣饌料奉奠奉告大祭」についても報告。「記念事業決算報告」の後、立野井理事により「解散報告」が行われました。

また、引き続きの定例総会では、「新役員就任・入会会員紹介」、「平成二十七年活動報告・収支決算報告」、「平成二十八年活動計画・予算案審議」についてそれぞれ承認。特に祭儀の奉賛、新たな教化活動の企画・展開として、高岡七夕まつり「八月一日〜七日」に「願い短冊」を境内に初設置。竹田恒泰氏講演会「十二月四日（日）富山竹田研究会主催」に特別協力するとともに、明年春の「第六十八回全国植樹祭とやま」関連諸企画の立案実行に向けて、崇敬者参加型の神社祭事・行事の企画立案と斎行について示されました。

さらに、社誌編纂事業のための史料蒐集、及び史料整理の推進と、九月二十六日（月）〜二十七日（火）、遠江国一宮小國神社・国宝久能山東照宮参拝研修旅行について、それぞれ報告されました。



講演される井後政晏先生

その後、記念基調講演として、皇學館大学井後政晏名誉教授より「諸国の一宮と総社の祭り」と題し、ご講演をいただきました。

式年大祭奉賛会 解散報告

去る平成二十六年二月十一日に結成の「射水神社 御鎮座千三百四十年・御遷座百四十年 式年大祭奉賛会」は、本日の解散式を以て、その使命を完遂致します。

向後は、これまでの崇敬奉賛会として組織し、来る百五十年の式年大祭に向け、越中総鎮守一宮である射水の大神のさらなる御神威の発揚に努めます。

平成二十八年六月十八日

射水神社式年大祭奉賛会

◆新入会員

【法人会員】

- 株式会社アミレ
- 有限会社エッグクリエーション
- 株式会社ことぶき
- JTB中部 富山支店
- 有限会社早川さく泉工業所
- ホシザキ北信越株式会社
- 高岡ミュージックセンタ
- オオタピアノ

【個人会員】

- 多田薬品工業株式会社
- 有限会社西紀
- 井川 彪
- 江幡 直幸
- 太田奈緒美
- 河合 晋
- 私市広治郎
- 高畑 真美
- 中林 明義
- 布谷 省三
- 橋本 隆
- 林 信宏
- 福井 修一
- 見津美紀子
- 宮腰 久嗣
- 要藤 利明

計 九社 十四名 の新入会

御礼 式年大祭記念事業芳名

この度の式年大祭が崇敬奉賛会員はじめ崇敬者各位の赤誠溢れるご奉賛のもと、厳肅に斎行出来ましたことは、この上ない喜びであります。茲に式年大祭記念事業にご奉賛賜りました皆様方の芳名を掲げ、深く感謝申し上げます。

式年大祭奉賛会役員

- ・穴田 甚朗
- ・立野井富二
- ・寺崎 敏夫
- ・島 憲誠
- ・林 松夫
- ・渡辺 守人
- ・向山 耕司
- ・吉岡隆一郎
- ・塩崎 利平
- ・荻布 精一
- ・田井 佳夫
- ・村本 武史
- ・菅野 淳一
- ・佐武峻三久
- ・山達 是人
- ・荻原 隆夫
- ・塩谷 雄一
- ・荻布 善亮

五百万円

- ・あけぼの敬神講 代表 向山 耕司

三百万円

- ・三協立山株式会社
- ・伏木海陸運送株式会社

二百万円

- ・株式会社 文化店

百万円

- ・高岡信用金庫
- ・株式会社 北翔
- ・藤川 正司
- ・向山 和子

五十万円

- ・株式会社 北陸銀行 高岡支店
- ・トナミ運輸株式会社
- ・北陸コカ・コーラボトリング株式会社
- ・塩谷建設株式会社
- ・高岡交通株式会社
- ・株式会社 タカギセイコー
- ・株式会社 北陸建材社
- ・株式会社 北日本新聞社
- ・株式会社 高岡水産物市場
- ・森田建設株式会社
- ・株式会社 ミヤシゲ

三十万円

- ・医療法人社団 誠林会
- ・第一物産株式会社
- ・高岡市農業協同組合
- ・株式会社 富山銀行
- ・有限会社 フレッシュ佐武
- ・丸果株式会社 高岡青果市場
- ・一般財団法人 北陸予防医学協会
- ・株式会社 開進堂
- ・カマタニ印刷
- ・高岡冷蔵株式会社
- ・東洋通信工業株式会社
- ・有限会社 中川自動車工業
- ・広島公認会計士事務所
- ・北陸防水株式会社
- ・山岡石材工業株式会社
- ・渡辺会計事務所
- ・山文花まつJFC万華苑
- ・東洋冷蔵株式会社
- ・能登高浜 小浜神社
- ・辻井 良雄
- ・辻井 利男

二十五万円

- ・株式会社 木立写真館
- ・株式会社 正三商店
- ・有限会社 橘楼
- ・株式会社 花金
- ・株式会社 ひまわり
- ・株式会社 ブライダルコアあなただ
- ・有限会社 宮一

二十万円

- ・株式会社 島屋
- ・高岡ガス株式会社
- ・株式会社 文苑堂書店
- ・荻布漁業生産組合
- ・荻布プロパン株式会社
- ・荻布倉庫株式会社
- ・株式会社 大越仏壇

十五万円

- ・株式会社 大野屋
- ・株式会社 九谷屋
- ・株式会社 富山第一銀行 高岡支店
- ・株式会社 中尾清月堂
- ・藤田 敬子
- ・金森産業株式会社
- ・株式会社 サンテン・コーポレーション
- ・タナベ自動車販売株式会社
- ・株式会社 LIBERTE
- ・株式会社 トヤマ水産
- ・株式会社 ヨシケイライフスタイル
- ・富山テレビ放送株式会社
- ・久井 孝夫
- ・山岡 利昭

十万円

- ・高岡ホンダ自販株式会社
- ・林整形外科医院
- ・寺崎工業株式会社
- ・荻布船舶株式会社
- ・株式会社 高岡ガスサービス
- ・有限会社 アートスタッフ
- ・共和興業株式会社
- ・株式会社 阿部
- ・井上機材株式会社
- ・株式会社 エイ・テック
- ・オダケホーム株式会社
- ・株式会社 織田幸銅器
- ・株式会社 カイハツ
- ・株式会社 神島リビング
- ・株式会社 協和総商
- ・久々江燃料店
- ・グリーン産商株式会社
- ・黒谷美術株式会社
- ・高陵タクシー株式会社
- ・株式会社 古城製作所
- ・サカキ産業株式会社 高岡支店
- ・有限会社 佐野金庫板金工業
- ・三鐵工業株式会社
- ・三和運輸株式会社
- ・有限会社 塩崎商店
- ・塩崎商衛株式会社
- ・株式会社 CKサンエツ
- ・株式会社 嶋安
- ・朋信社
- ・株式会社 菅原敬兵衛商店
- ・高の宮医院
- ・株式会社 竹中製作所

- ・有限会社 テンコー装飾
- ・砺波工業株式会社
- ・西村工業株式会社
- ・日本海自動車工業株式会社
- ・日本セオン株式会社 高岡工場
- ・日本曹達株式会社 高岡工場
- ・株式会社 御田緑化
- ・ビューティハウス美恵
- ・有限会社 広又蒲鉾商店
- ・フレッシュフーズアルファ
- ・北陸アルミニウム株式会社
- ・株式会社 本保
- ・株式会社 豆川自動車
- ・丸和ケミカル株式会社
- ・株式会社 室屋
- ・株式会社 山内神仏具店
- ・山田酒店
- ・山与株式会社
- ・株式会社 日東
- ・株式会社 四津井
- ・北国テクノ株式会社
- ・富山県西魚商業協同組合
- ・高岡魚商組合
- ・医療法人明心会 柴田病院
- ・中越バルブ工業株式会社 高岡工場
- ・多田薬品工業株式会社
- ・サクラパックス株式会社
- ・株式会社 竹内乾物
- ・株式会社 老子製作所
- ・北日本放送株式会社
- ・株式会社 第一商会
- ・有限会社 丸栄黒川仏壇店 黒川仏壇センター
- ・オリジン工業株式会社
- ・中部工管株式会社
- ・日新興業株式会社
- ・京都奉製株式会社
- ・株式会社 北陸化成工業所
- ・海道俊雄公認会計士事務所
- ・東和奉産株式会社
- ・株式会社 布屋商店
- ・米田税理士事務所
- ・みやこし内科医院
- ・有限会社 すまいる
- ・高岡市護国神社奉賛会
- ・青井 博
- ・布谷 省三、寿子
- ・勝山 功
- ・鳴川 安生
- ・藤川 勝喜
- ・森原 敬喜

- ・浦島 義寛
- ・吉田 秀幸
- ・石灰 昭光
- ・山田 勝久
- ・島 啓介
- ・野吾 英文
- ・中山弥八郎
- ・広島 律子
- ・太田奈緒美
- ・清河 秀之
- ・清河伊希子
- ・清河 愛子
- ・匿名

七万円

- ・院内社氏子一同
- ・株式会社 秋江
- ・有限会社 中村漆器店
- ・北陸総合警備保障株式会社 高岡支社
- ・株式会社 松沢美術
- ・第一ファインケミカル株式会社

六万円

- ・株式会社 寺崎運輸株式会社
- ・天野屋蒲鉾店
- ・有限会社 エッグクリエーション
- ・クラシエ製菓株式会社 高岡工場
- ・株式会社 創建建築事務所
- ・株式会社 タカナミ
- ・デジタルタカオカ
- ・株式会社 とさ
- ・南陽株式会社
- ・株式会社 西川構築社
- ・蓬來のし店
- ・八田医院
- ・富源商事株式会社
- ・有限会社 フジ創
- ・株式会社 ミヤワキ建設
- ・株式会社 若野鑄造所
- ・株式会社 大祐
- ・有限会社 正村
- ・株式会社 エビスシマダ
- ・割烹 福島
- ・平和交通株式会社
- ・株式会社 丸忠商事清水支社
- ・有限会社 早川さく泉工業所
- ・エステティックサロン Bare Beauty
- ・要藤 利明
- ・松本美未晃 與志子

三万円

- ・株式会社 信宏
- ・戸井 貢
- ・森下 利徳
- ・中林 明義
- ・株式会社 アリタ
- ・株式会社 井筒授与品店
- ・海王交通株式会社
- ・キクラ印刷株式会社
- ・北一株式会社
- ・木田芳香園
- ・茶道 清風の会
- ・株式会社 三愛工芸
- ・有限会社 三立工業所
- ・志貴野金属工業株式会社
- ・くにもと漆器店
- ・シマ商会
- ・高岡金網株式会社
- ・高岡通運株式会社
- ・株式会社 ダスキン高岡
- ・立山電化工業株式会社
- ・有限会社 チャンスメーカー
- ・株式会社 富山県福祉旅行センター
- ・株式会社 中川金物
- ・日東製網株式会社 高岡事業所
- ・株式会社 日本海カッター工業
- ・日本海産商株式会社
- ・株式会社 ヒヨシ
- ・福島機械工業株式会社
- ・北陸レジン工業株式会社
- ・株式会社 山崎モーターズ
- ・有限会社 西紀
- ・高岡市弓道連盟
- ・麻善蒲鉾有限公司
- ・有限会社 松沢商店
- ・富山県西部青果食品協同組合
- ・株式会社 大樹
- ・協和紙工業株式会社
- ・株式会社 藤田銅器製作所
- ・丸福石油産業株式会社
- ・株式会社 カジメイク
- ・株式会社 サイゴ堂
- ・頭川証券株式会社
- ・株式会社 今川雑穀店
- ・菱富食品工業株式会社
- ・株式会社 寺崎
- ・株式会社 ことぶき
- ・八百勝青果株式会社
- ・フルーツひろは
- ・藤川 達三
- ・西野 俊夫
- ・谷口 央
- ・坂田 昭夫

- ・有限会社 モメンタムフアクトリー・Orii
- ・株式会社 三八五紙工
- ・トータル・メディアカル津沢株式会社
- ・株式会社 サンワ
- ・中村表具店
- ・高岡市消防団定塚分団
- ・イルカ交通株式会社
- ・株式会社 大高運輸
- ・滝口提灯店
- ・横川家具店
- ・伊勢玉神社
- ・高橋 幸子
- ・上田 博
- ・西川 元祥
- ・大谷内 勇
- ・辻 保
- ・酒井紀久雄
- ・高永 周寛
- ・高田 政公
- ・清水 篤
- ・寺井 史佳
- ・谷口 正和
- ・拓哉、みづき
- ・中山 哲
- ・藤井 勝英
- ・小林 進吾
- ・香子

二万円

- ・株式会社 神路社
- ・中條商事株式会社
- ・株式会社 山本建成工業
- ・有限会社 前崎養鶏
- ・割烹 寿文
- ・有限会社 室崎煉瓦工務店
- ・高岡ミュージックセンター・オオタピアノ
- ・剣楓会
- ・ヘアメイク じゅの
- ・田中 洋子

一万五千元

- ・高岡調理師会

一万円

- ・ヘアサロン しゃらく
- ・角久旅館
- ・株式会社 富山県人社
- ・株式会社 平和合金
- ・角田餅菓子店
- ・株式会社 くぼた本店
- ・有限会社 藤本晴可
- ・大浦写真館
- ・MKプランニング
- ・弥栄節保存会
- ・株式会社 電陽社建設
- ・株式会社 ダイムワン
- ・仁藤 安雄
- ・熊西 勝己
- ・橋本 隆
- ・宮西 佳浩

五千円

- ・匿名
- ・羽岡 栄勝
- ・関 庸次
- ・横田 充弘
- ・中 利夫
- ・江守 榮信
- ・河合 晋
- ・棚辺 茂
- ・棚辺 貴子
- ・萩原 貞亮
- ・辻村ゆかり
- ・川西 誠治
- ・三浦 正清
- ・大谷 スミ子
- ・立浪 スミ子
- ・大口 洋子
- ・竹田 正勝
- ・太田 陽子
- ・広羽 秀治
- ・明 美佐季
- ・江幡 直幸
- ・鈴木 克良
- ・山本 博史
- ・石田 勝二
- ・私市広治郎
- ・川西 洋一
- ・川口 直弘
- ・若井美奈子
- ・原 延吉
- ・渡辺 祐一
- ・太田 憲男
- ・三箇 信儀
- ・平田由紀恵
- ・河田 雅生
- ・堀 志磨生
- ・角 依子
- ・岡村 光恭
- ・匿名
- ・油谷 利彦
- ・折井 宏司
- ・吉野 晋朗
- ・藤岡 勇
- ・柴田 哲雄
- ・棚辺 敬子
- ・棚辺ひとみ
- ・前田壽美子
- ・矢後 孝之
- ・高浦 孝文
- ・林 克典
- ・寺嶋 勇
- ・南林 罪子
- ・宮浦 実
- ・新田孝次郎
- ・今村 博吉
- ・中山 康雄
- ・関 剛史
- ・畑田 清志
- ・板坂 吉将
- ・山本 剛士
- ・大坪 義昌
- ・岩辺 勉
- ・川西るみこ
- ・坂下 英之
- ・三輪 節子
- ・中田由紀子
- ・高野史世子
- ・大井 僚
- ・友紀子
- ・島 春齋
- ・名原 良
- ・森田 直人
- ・角 恵子
- ・谷口 辰夫
- ・中谷 信弘

二千円

- ・本江 由美

(順不同・敬称略)

式年大祭余話抄録

其の壱

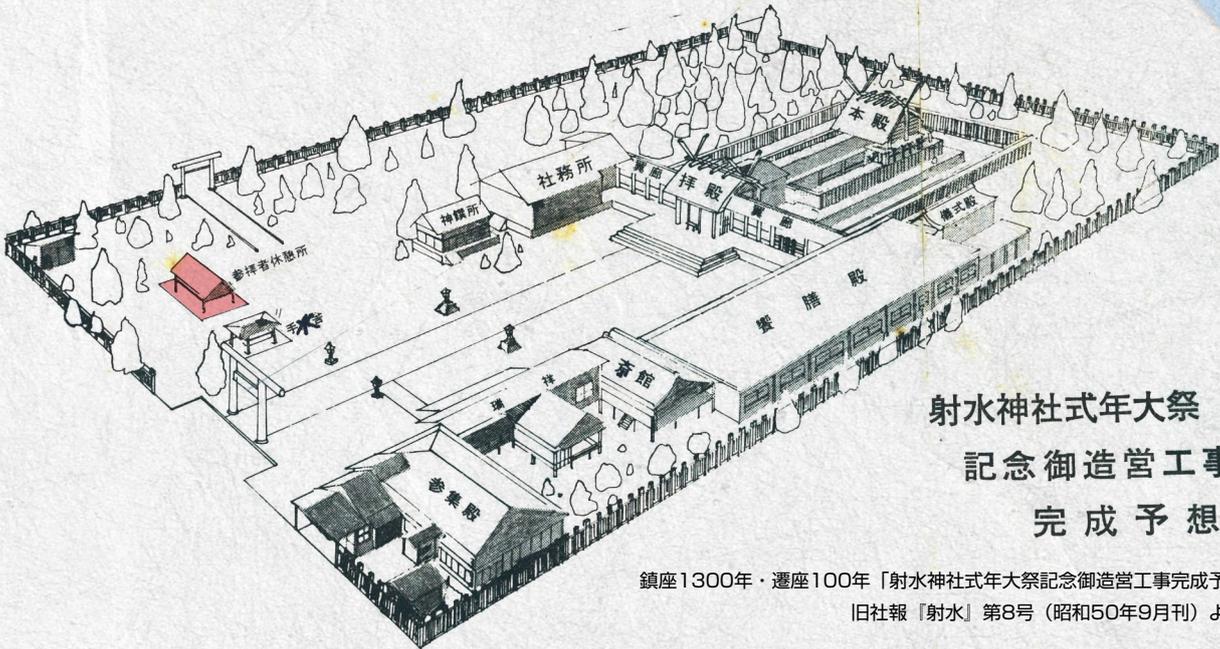
〜四十年の時を越えて、境内整備が完遂〜

大鳥居脇より後方の包丁塚脇に移設された寄棟造りの手水舎は、アラカシで生垣を造り、境内整備に際して伐り出された樺の丸太を机と椅子にし、境内を一望することの出来る「参拝者休憩所」として再活用されています。

平成十六年一月の復刊以前に発行されていた社報『射水』第八号（昭和五十年九月刊）には、鎮座千三百年・遷座百年式年大祭に伴う記念事業として計画されていた「射水神社式年大祭記念御造営工事完成予想図」が掲載されており、この中に「参拝者休憩所」も描かれています。

当時、これは実現に至りませんでした。この度の記念事業によって、当神社としても長年の宿願であった参拝者休憩所の設置が四十年前の完成予想図通りに完遂しました。

尚、昭和五十年（一九七五）四月二十三日に斎行された式年大祭は、『日本書紀』天武天皇三年正月、奉幣に与ったことが見えることより起算して千三百年にあたることから、畏き辺りより奉幣の榮に浴しています。



射水神社式年大祭
記念御造営工事
完成予想図

鎮座1300年・遷座100年「射水神社式年大祭記念御造営工事完成予想図」
旧社報『射水』第8号（昭和50年9月刊）より転載



旧社報『射水』第七号の表紙
（昭和五十年五月刊）



用途不明であるが、明治期の絵葉書には「國幣中社射水神社」と記された社号の掲げられた握舎が見える。

其の弍 手水鉢移設完了奉告祭を斎行

年が明けて間もない一月二十三日の月次祭に併せて、手水鉢移設完了奉告祭を執り行い、祭典には木舟町朋信社の塩崎利平代表はじめ、六名が参列されました。

この手水鉢は、明治八年（一八七五）九月の奉納以来、大鳥居脇に設置され、多くの方が参拝に際して、心身のお清めに利用してきました。加賀藩前田家のお留石である戸室石製で、藩主や上級武士のみが使用を許された銘石でもあります。

祭典では、宮司が祝詞を奏上、玉串を奉りての拝礼では、塩崎代表以下関係者が旧中門でそれぞれお参りされました。

その後、新設された「手水処」で記念撮影を行い、工事を担当した山岡石材工業株式会社より手水鉢が境内より翼廊へ移設されるまでの記録写真が贈られました。

今後は新年や日々の昇殿団体参拝時に利用されます。



手水鉢の翼廊移設



手水鉢移設完了奉告祭を終えて



電信柱・架線の移設

其の参 く大鳥居前参道横断架線の移設く

当神社の正面、表参道の目印として、永く建ち続けている大鳥居の前方には、電話とケーブルテレビの架線が参道を横切っておりましたが、北陸電力と各社のご協力のもと、この度の境内整備によって電信柱が移設され、架線が参道を横切らずに済むようになりました。

往時を振り返ると、この大鳥居は正に当神社のシンボルであり、遷座当初は明神型、その後、両部型となり、昭和五十年の遷座百年祭に併せて現在の銅板巻神明型の鳥居となりました。

大鳥居を遮るものがなくなったことで、これからはより一層、春の桜、夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色とともに社頭の景を愛でることが出来ます。



移設後



移設前

杜の景色

祭事暦（上半期）

- 1月1日 歳旦祭 初詣
- 1月14日 左義長(射水の火祭り)
- 2月3日 節分祭
- 2月11日 紀元祭
- 2月17日 祈年祭
- 3月20日 春季皇霊祭
- 4月15日 高岡市護国神社 春季例大祭
- 4月18日 日吉社春祭
- 4月23日 例祭
- 4月29日 昭和祭 院内社春祭
- 5月13日 悪王子社春祭
- 6月18日 崇敬奉賛会総会
- 6月27日 式年大祭奉賛会解散式
- 6月30日 鎮火祭
- 7月1日 夏越大祓 人形感謝清祓式
- 7月10日 職場安全祈願祭
- 7月29日～31日 奉納書道展
- 8月7日 七夕祭
- 8月9日 七夕短冊焼納祭
- 8月13日 土俵祭

毎月1日朔日祭・23日月次祭



集結した交通安全啓発車輦

交通安全祈願祭

新年を迎えた一月八日、高岡交通安全協会「交通安全祈願祭」を執り行い、一年の無事故・無違反を祈願しました。

県内における交通事故は、発生・負傷者数とも減少傾向にあります。ここ数年は事故数に占める高齢者の割合が全国平均を大きく上回るなど、高齢者の安全確保が課題となっています。私たち一人一人の優しさと思いやりの輪が広がることで日々の安全は保たれます。いつも心新たに交通安全に努めなければなりません。

最重儀、春の大御祭

四月二十三日、二上神の御神徳に感謝し、皇室の安泰と越中国内の平穩を祈る例祭を斎行しました。

古儀に倣い前日夕刻と例祭翌日には大御祭の執行と無事の奉仕を大神様に奉告し、祭儀は三日間に亘ります。

一年を通して最も大切な祭事で、当日は、ご神前に富山県産の米、酒、魚、旬の野菜や果物など、十二台の神饌、幣帛をお供えし、御神楽「浦安の舞」を奉納、優雅な調べが古城の杜に響き渡りました。



玉串を奉る宮司

夏の祓い「いみづの輪くぐり」

半年で身に付いた罪や穢れを祓い去る夏越の大祓は、六月三十日に執り行われました。

参列者は「水無月の夏越の祓えする人は千歳の命延ぶといふなり」との和歌を唱え、古来より邪気を祓い除ける力があるとされる茅で作られた輪を八の字にくぐり、無病息災を祈りました。

なお、茅の輪は前日早朝、神職が手刈りした茅を用い、崇敬者である職人の方とともに毎年変わらず奉製されています。



茅の輪をくぐる一行

第三十七回奉納書道展

七月三十一日、奉納奉告祭並びに筆感謝清祓祭に引き続き、参集殿で表彰式が行われました。

式年大祭記念となった昨年より二十六点多い一〇七二点の作品が県内外から寄せられ、当日は約二百人以上の方々にご参列いただき、受賞者へ賞状と記念品がそれぞれ手渡されました。

また、この日は、当社イメージキャラクター「ふうたん」もお祝いに駆けつけ、満面の笑みで作品と一緒に記念写真を撮る光景がとても印象的でした。



最高賞の表彰状授与

七夕祭を初開催

活力あるまちづくりに尽力されている末広開発（株）を中心とした実行委員会主催の「高岡七夕まつり」に協力し、本年初めて八月一日より九日まで「七夕祭」を開催しました。

境内に七夕の笹飾りがされ、特に拝殿前では参拝者が自由に短冊を取り付けられるようになっており、たくさんさんの願いごとが結ばれた七夕飾りとなりました。

七日、ご神前には七夕にちなんだ「素麺（天の川・織り糸）」と「金平糖（星）」を献供し、諸芸上達・縁結びを願って、雅楽器や御神木・紅梅の描かれた「硯箱」も短冊とともに据えられました。

九日、恒例の七夕短冊焼納祭では、笹を手にした園児たちが元気な声で「たなばたさま」を神様に奉納しました。

元気いっぱいの子供達と色とりどりの七夕飾り



戦後七十一年 明かされる歴史

神通と射水丸

神通・射水丸就航年表

〔神通■紫字で記載 射水丸■茶字で記載〕

大正	昭和
十一年	二年
一九二二	一九二七
8・4	12・25
神戸川崎造船所で神通起工	神通艦長以下参拜 写真2 ※前後に御分盃を奉斎か
十二年	七年
一九二三	一九三二
12・8	6・26
神通進水 写真1	美保関事件
遷座五十年祭を齋行	第二水雷戦隊旗艦神通艦長岩下保太郎大佐以下乗組員
高野義太郎著『国幣中社射水神社志』発行	百五十名が武運長久を祈願 写真3・4・5
十四年	九年
一九二五	一九三三
8・31	8・24
神通竣工、就役	射水丸起工
神通岩瀬港に初寄港	射水丸進水
	射水丸浦賀船渠で竣工 写真6
	射水丸伏木港に入港
	射水丸「御神體遷御祭」御護符を授ける 写真7
	射水丸海軍に徴備される
	射水丸入籍、特設掃海母艦（舞鶴鎮守府所管）
	大東亜戦争開戦
	射水丸入籍、特設運送船（舞鶴鎮守府所管）
	神通が川内型巡洋艦帝國軍艦籍から除籍
	戦時下により遷座七十年祭を齋行できず
	射水丸アメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没
	射水丸除籍、解備
	遷座八十年祭を齋行
十三年	十三年
一九二四	一九三八
9・13	12・22
	射水丸進水
	射水丸浦賀船渠で竣工 写真6
	射水丸伏木港に入港
	射水丸「御神體遷御祭」御護符を授ける 写真7
	射水丸海軍に徴備される
	射水丸入籍、特設掃海母艦（舞鶴鎮守府所管）
	大東亜戦争開戦
	射水丸入籍、特設運送船（舞鶴鎮守府所管）
	神通が川内型巡洋艦帝國軍艦籍から除籍
	戦時下により遷座七十年祭を齋行できず
	射水丸アメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没
	射水丸除籍、解備
	遷座八十年祭を齋行
十四年	十四年
一九二五	一九三九
7・31	7・14
	射水丸進水
	射水丸浦賀船渠で竣工 写真6
	射水丸伏木港に入港
	射水丸「御神體遷御祭」御護符を授ける 写真7
	射水丸海軍に徴備される
	射水丸入籍、特設掃海母艦（舞鶴鎮守府所管）
	大東亜戦争開戦
	射水丸入籍、特設運送船（舞鶴鎮守府所管）
	神通が川内型巡洋艦帝國軍艦籍から除籍
	戦時下により遷座七十年祭を齋行できず
	射水丸アメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没
	射水丸除籍、解備
	遷座八十年祭を齋行
十五年	十五年
一九二六	一九四〇
4・26	4・26
	射水丸進水
	射水丸浦賀船渠で竣工 写真6
	射水丸伏木港に入港
	射水丸「御神體遷御祭」御護符を授ける 写真7
	射水丸海軍に徴備される
	射水丸入籍、特設掃海母艦（舞鶴鎮守府所管）
	大東亜戦争開戦
	射水丸入籍、特設運送船（舞鶴鎮守府所管）
	神通が川内型巡洋艦帝國軍艦籍から除籍
	戦時下により遷座七十年祭を齋行できず
	射水丸アメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没
	射水丸除籍、解備
	遷座八十年祭を齋行
十六年	十六年
一九四一	一九四五
12・8	12・8
	射水丸進水
	射水丸浦賀船渠で竣工 写真6
	射水丸伏木港に入港
	射水丸「御神體遷御祭」御護符を授ける 写真7
	射水丸海軍に徴備される
	射水丸入籍、特設掃海母艦（舞鶴鎮守府所管）
	大東亜戦争開戦
	射水丸入籍、特設運送船（舞鶴鎮守府所管）
	神通が川内型巡洋艦帝國軍艦籍から除籍
	戦時下により遷座七十年祭を齋行できず
	射水丸アメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没
	射水丸除籍、解備
	遷座八十年祭を齋行
十七年	十七年
一九四二	一九四六
5・31	5・31
	射水丸進水
	射水丸浦賀船渠で竣工 写真6
	射水丸伏木港に入港
	射水丸「御神體遷御祭」御護符を授ける 写真7
	射水丸海軍に徴備される
	射水丸入籍、特設掃海母艦（舞鶴鎮守府所管）
	大東亜戦争開戦
	射水丸入籍、特設運送船（舞鶴鎮守府所管）
	神通が川内型巡洋艦帝國軍艦籍から除籍
	戦時下により遷座七十年祭を齋行できず
	射水丸アメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没
	射水丸除籍、解備
	遷座八十年祭を齋行
十八年	十八年
一九四三	一九四七
7・13	7・13
	射水丸進水
	射水丸浦賀船渠で竣工 写真6
	射水丸伏木港に入港
	射水丸「御神體遷御祭」御護符を授ける 写真7
	射水丸海軍に徴備される
	射水丸入籍、特設掃海母艦（舞鶴鎮守府所管）
	大東亜戦争開戦
	射水丸入籍、特設運送船（舞鶴鎮守府所管）
	神通が川内型巡洋艦帝國軍艦籍から除籍
	戦時下により遷座七十年祭を齋行できず
	射水丸アメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没
	射水丸除籍、解備
	遷座八十年祭を齋行
十九年	十九年
一九四四	一九四八
6・12	6・12
	射水丸進水
	射水丸浦賀船渠で竣工 写真6
	射水丸伏木港に入港
	射水丸「御神體遷御祭」御護符を授ける 写真7
	射水丸海軍に徴備される
	射水丸入籍、特設掃海母艦（舞鶴鎮守府所管）
	大東亜戦争開戦
	射水丸入籍、特設運送船（舞鶴鎮守府所管）
	神通が川内型巡洋艦帝國軍艦籍から除籍
	戦時下により遷座七十年祭を齋行できず
	射水丸アメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没
	射水丸除籍、解備
	遷座八十年祭を齋行
二十年	二十年
一九四五	一九四九
8・10	8・10
	射水丸進水
	射水丸浦賀船渠で竣工 写真6
	射水丸伏木港に入港
	射水丸「御神體遷御祭」御護符を授ける 写真7
	射水丸海軍に徴備される
	射水丸入籍、特設掃海母艦（舞鶴鎮守府所管）
	大東亜戦争開戦
	射水丸入籍、特設運送船（舞鶴鎮守府所管）
	神通が川内型巡洋艦帝國軍艦籍から除籍
	戦時下により遷座七十年祭を齋行できず
	射水丸アメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没
	射水丸除籍、解備
	遷座八十年祭を齋行
二十一年	二十一年
一九四六	一九五〇
9・11	9・11
	射水丸進水
	射水丸浦賀船渠で竣工 写真6
	射水丸伏木港に入港
	射水丸「御神體遷御祭」御護符を授ける 写真7
	射水丸海軍に徴備される
	射水丸入籍、特設掃海母艦（舞鶴鎮守府所管）
	大東亜戦争開戦
	射水丸入籍、特設運送船（舞鶴鎮守府所管）
	神通が川内型巡洋艦帝國軍艦籍から除籍
	戦時下により遷座七十年祭を齋行できず
	射水丸アメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没
	射水丸除籍、解備
	遷座八十年祭を齋行

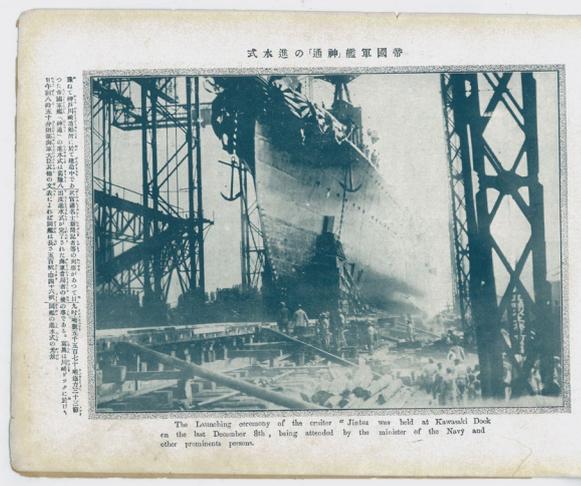


写真1 帝國軍艦「神通」の進水式（『歴史画報』大正13年2月号より）

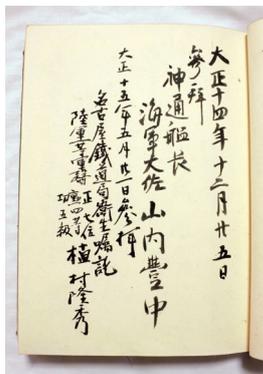


写真2 「参拝者芳名録」
大正14年12月25日条

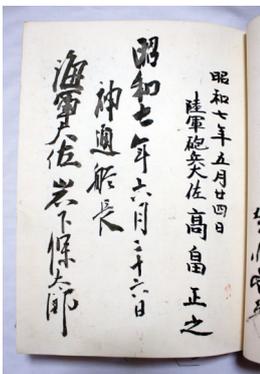


写真3 「参拝者芳名録」
昭和7年6月26日条



写真5 高岡新聞(S7.6.28)

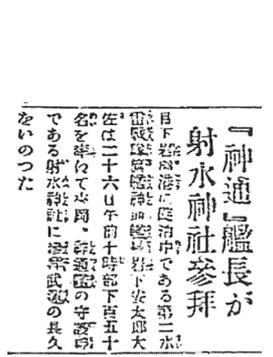


写真4 富山新報(S7.6.28)



写真6 高岡新聞(S15.4.26)

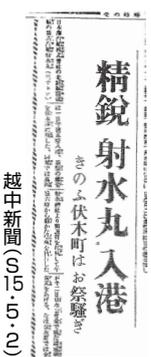


写真7 越中新聞(S15.5.2)

前号で特集した「明かされる歴史」において、軽巡洋艦神通に当社のご祭神の分霊が奉斎されていたことが判り、大正期から昭和期にかけての「参拝者芳名録」に歴代の神通艦長はじめ、副艦長、乗組員の芳名が確認されたことをご紹介しました。

そして、海軍有終会発行『有終』の記載内容から、神通は昭和二年以前に当社の分霊を受けており、大正十四年七月に竣工、岩瀬港に初寄港した同年十二月二十五日に神通艦長以下の関係者が参拝されていることから、どうやらこの時期に当社の分霊を譲渡した可能性が強いと考えられます。

また、これまで射水川（現小矢部川）、或いは当社名に由来して、その名を与えられたという日満連絡船「射水丸」についても当時の地元新聞を見ると、「富山県の由緒ある射水神社の名をとった北日本汽船会社の日満連絡船射水丸」（（富山新聞）昭和十四年七月十六日掲載）と見え、更に昭和十五年五月一日、伏木港入港にあたり、同日午後六時から当社において「御神體遷御祭」が執行されたことが記されています。

これまで決して知られることのなかった歴史が明らかとなりつつあり、職員一同、感激しております。

祖国のため、家族のためと、尊い命を捧げ、今日の平和を築かれた先人たちへの感謝と慰霊・顕彰を忘れることなく、日々の生活、神明奉仕に努めなければならぬと思う次第です。



軽巡洋艦「神通」

大日本帝国海軍の軽巡洋艦。大正十一年八月神戸川崎造船所で起工。大正十二年十二月進水。大正十四年七月竣工、就役。昭和十八年七月戦没。

この間、水雷戦隊の旗艦としての任をよく果たし、後のアメリカ戦史研究家から「神通こそ太平洋戦争中、最も激しく戦った日本軍艦である」という賞賛をうけた。



日満連絡船「射水丸」

射水神社に由来する名を与えられ、昭和十五年四月に浦賀船渠で完成。日本海汽船所属の客船として伏木港と朝鮮半島を結んだ。

同年十二月には海軍に徴傭されて軍事輸送に携わり、同十九年六月にアメリカ機動部隊艦載機群に捕捉され空爆で沈没。誕生してからわずか四年で戦場に散るが、まさに標準船らしい生涯を送った。

光彩 — 神宮撤下御装束神宝 —



式が執り行われました。

年あらたまる一月二十三日、神宮御装束神宝撤下奉告祭を奉仕し、六月十八日に開催された射水神社崇敬奉賛会総会では、崇敬奉賛会員らに特別に公開されました。

また、この度の下附にあたって、社伝の刀剣類についても油をひく、或いは研磨をする等の手入れがなされ、燦然と輝く、威厳に満ちた本来の姿となりました。

その後、秋季大祭前日に読合式を執り行い、新調した桐箱に納め、本殿内に奉安されました。

今回、神宮より下附いただいた御装束神宝は次の通りです。

一、皇大神宮御神宝



革御鞆 壹腰

一、皇大神宮別宮

伊佐奈彌宮御装束

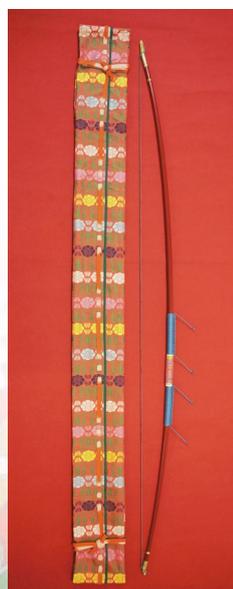
御櫛笥 壹合



一、皇大神宮別宮

瀧原宮御神宝

梓御弓 壹張



一、皇大神宮別宮

瀧原竝宮御神宝

銅黒造御太刀 壹柄



ご奉納

一、紅地大和錦小葵文様拜殿御簾

北村 麗子

壺式



二、銅地菊花御紋吊燈籠 壺拾六基

株式会社 ミヤシゲ

代表取締役 宮重 清

壺対

三鐵工業株式会社

壺基

株式会社 室屋

代表取締役会長 室谷博久

壺基

森田建設株式会社

森田市五郎

壺基

株式会社 開進堂

山崎 義行

壺基

株式会社 織田幸銅器

織田 幸市

壺基

株式会社 美恵

安田美恵子

壺基

穴田 甚朗

壺基

- ・荻布 精一
- ・あけぼの敬神講
- 向山 耕司
- 藤川 勝喜
- 嶋 安生
- 穴田 太一
- 辻井 利男
- 辻井 則子
- 石灰 昭光
- 剛

壺基 壺基 壺基 壺基 壺基 壺基 壺基 壺基 壺基 壺基

(刻名に準ずる)



献灯時

一、錫製祭器具

水器

狂言和泉流二十世宗家 和泉元彌

壺口



水器

高杯



平瓦

- 平瓦 壺枚
- 瓶子 壺対
- 高坏 壺脚
- 株式会社 能作



瓶子

二、白地菊花金御紋門帳

あけぼの敬神講有志



(敬称略)

人事

新任

仕女

布尾 幸枝

平成二十八年五月二十三日

巫女

越野 晶鈴

平成二十八年七月十九日

巫女見習

佐渡 愛美

平成二十八年七月一日

うつくしの杜の豊かな自然のなかで

神前結婚式のご案内

神前結婚式の魅力

春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪化粧。豊かな自然と美しい四季の中、神様の前で、夫婦の契り〳〵を結ぶ、それが神前結婚式です。

神社は、お宮参りや七五三、初詣など、私たち日本人にとって馴染みが深く、また親から子、子から孫へと縁が繋がっていく特別な場所でもあります。

そして、結婚式は、両家のつながりや家族との絆を確かめ合い、今まで携わってきた方々へ感謝の気持ちを伝えることの出来る大切な時間です。

越中総鎮守一宮として由緒ある神社の厳かな雰囲気の中、家族や親しい友人達に見守られて執り行われる伝統と格式ある結びの儀礼は、情緒あふれ、とても感動的です。



合わせ水

朝一番に汲んだ水を両家が持参し、カワラケへ同時に注いだ「合わせ水」を、結婚式の始まる参進前に花嫁が一口飲みます。そして、カワラケを地面に打ちつけて割り、きれいに割れたカワラケは嫁ぎ先の庭に埋められ、嫁ぎ先の土となります。

生まれ育ってきた家の水と、これから住む家の水を合わせて飲むことによつて、花嫁が嫁ぎ先の水に合わず、お腹を壊して体調が悪くならないようにという直接的な意味と、水が合わない…すなわち風習が合わないことであるいろいろなすれ違いが起こり、苦勞することがないようにとの願いが込められています。



花嫁のれん

実家の家紋が染め抜かれた華やかな「のれん」です。本来は、花嫁が嫁入りの際に持参し、花婿の家の仏間の入り口に掛けられます。玄関先で「合わせ水」を行い、両家が挨拶を交わした後、花嫁がのれんをくぐり、ご先祖様にお参りをしてから結婚式が行われました。

今日でも、嫁ぐ娘へ母親が自身の「花嫁のれん」を譲るなど、欠くことの出来ない嫁入り道具の一つとして、その家々で大切に受け継がれています。



神前結婚式

平成二十八年

如月 二月奉式

下田 拓人・成美
中島 政雄・いつか
荒井 健太・望未

弥生 三月奉式

守護 圭太・菜穂
安東 克晃・和枝
上野 健一・恵美
岡田 孝志・美樹
高野 元秀・恭子
糸谷 哲弥・美保
穴倉 直樹・由香里
安井 浩祐・永吏
駒井 将人・香菜恵

皐月 五月奉式

原崎 悠司・沙季
金森 智樹・ななえ
松岡 秀和・博子
齋藤 歩・綾香
大谷内 泰輔・亜稀子
三浦 圭太・麻理恵

卯月 四月奉式

松田 敬佳・みさと
成田 亮・直子
松尾 慎太郎・幸子
山崎 道雄・未来
荻野 宏・友里
小西 耕平・彩世
西野 彰・玲伊子
幡野 透・あさみ
山崎 卓也・奈央

水無月 六月奉式

吉崎 忠司・本子
藤森 啓宗・寿美
二谷 崇大・恵利華
澤井 和博・紀子
水野 裕也・絵里香
草開 徹・千春
米澤 大樹・夏絵
宮川 祐介・陽子

柴田 正嗣・小百合
龍 雅貴・絵梨
久保 五良・理沙
舟橋 朋敬・智萌
森川 龍也・真美
末永 誠・香織
松本 洋亮・霞未
菱田 和義・麻里
菱田 和義・麻里



うつくしの杜で、一生残る感動の一日を。

七五三詣のご案内

七五三は、三歳の男女（髪置）、五歳の男児（袴着）、七歳の女児（帯解）のお祝いで、大人に近づいていくことを神様にご奉告、感謝し、成長を祈る行事です。

お子さまの今日までの無事な成長に感謝し、今後の幸せと成長をお祈りする大切な日は、国鎮守の射水神社にお参りください。

平成28年 七五三年表				
※数え年・満年齢どちらでもお受けてきます。				
	数え年	満年齢	性別	
7歳	平成22年生	平成21年生		女の子
5歳	平成24年生	平成23年生	男の子	
3歳	平成26年生	平成25年生	男の子	女の子

※数え年とは生まれた年を「二歳」と数え、お正月を迎えるたびに日本人のすべてが神々から新しい生命を頂き、一つずつ年齢を重ねる数え方です。

※衣装・着付・写真など、便利なセットもご用意します。



紫陽花 — あじさい —

『万葉集』には、橘諸兄が「アジサイの花が幾重にも重なって咲くように、いつまでも元気でいてください。この花を見るたびに、わたしもあなたのことを思っていますから」と詠まれています。

写真は、社務所周辺で撮影されたアジサイです。四季折々の花が咲く境内をお楽しみください。



編集後記

本年六月十八日、式年大祭奉賛会解散式を行い、記念事業にご奉賛賜りました皆様の芳名をご紹介申し上げます本号を以て、この度の式年大祭に関わる全ての事業は完遂致しました。

更に、今号では神宮より下附に与りました御装束神宝の紹介、戦後七十一年を迎え、当社の御分霊が奉斎されていた事が明らかとなった「神通」「射水丸」について、また初めて執り行われた七夕祭の記事等、これまでにない内容となっております。

今後も四季折々の祭事を通して、大神様の御心に触れ、故郷・越中の人々の「こころの拠所」として、更に奉仕に勤める所存です。結びに、皆様方の益々のご隆昌とご健勝をお祈り申し上げます。